

1 学校教育目標

○やさしく ○かしこく ○たくましく

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちにとって、学ぶ楽しさが味わえ、成長を実感できる学校 ○ 子どもたちにとって、安全で安心感のもてる学校 ○ 保護者や地域にとって、誇りと信頼がもてる学校 ○ 教職員にとって、教育者としての喜びが味わえる学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ やさしい子…互いの人格を尊重し、心豊かな子 ○ かしこい子…自ら学び、よく考えようとする子 ○ たくましい子…目標をもち、最後までやり遂げる子 健康な生活を送ろうとする子
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己研鑽に努め、キャリアに応じた力量を身に付け、プロとして専門性の高い教師 ○ 児童・保護者・地域の願いを受け止め、深い児童理解ができる教師 ○ 教育公務員として、組織の一員として課題解決に努め、協働して職務を遂行できる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>

- 明るく素直で人なつこい児童が多く、あいさつができる児童が比較的多い。
- 学校教職員の連携・組織力の向上
- 地域・保護者の皆様は、開かれた学校づくり協議会を中心に学校教育への協力があり、コロナ禍でも常に学校を見守っていただいている。

<成果>

- 「鹿浜五色桜子どもガイドブック」遵守
- 課題解決的な学習足立スタンダードの実施・ノート指導の定着
- オリ・パラ教育のレガシーの形成
- 体育発表会・展覧会等の学校行事の成功
- 安定した学校生活(高学年が全校児童の手本 学力向上へ)
- 情操を育てる美しい学校環境の維持

<課題>

- 知・徳・体バランスのとれた児童の育成
- 課題を解決して主体的に学ぶ力と人間関係形成力の育成

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	安全・安心な学校			○	○	○
3	保護者・地域と共に育てる学校			○	○	○
4	オリ・パラ教育	○	○	○	○	○

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン		
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
自ら学び考えようとする子の育成	区学力調査通過率 85%	4月 国：76.7% 算：79.2% 7月 国： 算：82.2%	学ぼうとする意欲のある児童が多いが結果が伴わないのが現状。	○

	アクションプラン	対象 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	AIドリルの活用	国・算・ 社・理・ 英 3年生以上	通年	授業中の学習内容の定着 さくら教室 宿題	学力調査	通過率 85%	4月 国：76.7% 算：79.2% 7月 国： 算：82.2%	・高学年を中心に家庭学習等で活用できた。授業中の活用をもっとしていきたい。	○
2 継続	さくら教室 (放課後補習教室)	全学年 算数・国語 学力テスト 目標値未 満 単元テスト 正答率 70%未 満	毎週 月・金 放課後 30分 (教科は 隔月交代)	【指導者体制】 担任＋専科サポートメンバー4名 【取り組みのねらい・目的】 つまづきをさかのぼり、演習を中心に個別もしくは少人数指導。進度は各個人で異なるが、復習問題は、期間内に終了するように、1日に進める目安は伝える。 【使用教材】 区調査の過去問及び類似問題プリント、ベーシックドリル	学力定着度確認テスト (10月2月実施)	通過率 85%	・毎週月・木の放課後に実施。 ・前期は区調査で誤答した問題の解き直しを中心に行い、理解度の低い児童に対して個別に指導を行った。 ・夏以降は最下位層を中心に個別指導をするほか、ワークテストで成績が奮わなかった児童への補習も行った。	・目標の数値まで届かせたい児童が多いが、人数を絞らないと手厚く指導ができなくなってしまう。	○

3 継続	サマースクール	全学年 算数国語 学力テスト目標値未 満各学年10名程度。	夏季休業日中の10日間 各日50分	<p>【指導者体制】 学年の先生+他学年の先生+専科サポートメンバー4名</p> <p>【取り組みのねらい・目的】 担任の少人数指導のもと、進める。区学力調査復習問題集を進めながら、前学年の学習内容について、復習をしながら、定着を図る。復習問題が終わった時は、夏休みの宿題冊子等で、現学年の学習内容の復習を行い、定着を図る。</p> <p>【使用教材】区学力調査復習問題集・夏休みの宿題冊子</p>	区学力調査再調査	目標値通過率85%	<ul style="list-style-type: none"> ・10日間実施 ・7月までの学習内容の補習的活動。ここまでの学習においてつまずきを感じる児童を対象とする。学習プリントを用いて指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より個別最適な学びに近づけるため、AIドリルを有効活用していきたい。 	○
4 新規	家庭学習の手引き発行・活用	全学年 全員 各教科 自学自習	年3回 4月、9月、1月	<p>【取り組みのねらい・目的】 自学自習力の向上 家庭学習強化月間とし、宿題の提出率を各教科で確認する。提出できない児童に対しては、その日のうちに放課後指導等で課題を終了させてから下校させる。</p>	宿題提出状況調査	宿題提出率90%	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題提出率90%前後 	<ul style="list-style-type: none"> ・手引きの見直しを検討。 ・学年×10分の学習時間を浸透させたい。 	○
5 継続	かけ算九九検定・補習	算数 第3学年以上 九九に課題のある児童	年2回 個人面談中	<p>3年生以上の学年を対象に、かけ算九九の定着ができていない児童を対象に少人数で指導にあたる。</p> <p>【使用教材】 かけ算九九表・かけ算プリント・100ます計算プリント</p>	かけ算定着テスト	正答率100%	<ul style="list-style-type: none"> ・夏前と年明けに実施。 ・各クラス正答率100%にし次年度へと引き継いでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が一回での合格とはいかないが、ほぼ二回目では合格している。 	○
6 継続	小中連携合同研修	各教科 全教員	年6回	研究授業 授業参観 情報交換	週案 授業観察	全員参加	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の授業を見合い、ICTの活用を中心に研究を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の情報交換だけではなく指導法の情報交換も活発にできるとよい。 	○

7 継続	校内研究	算数科 全教員	各学年 研究授 業1回	算数科に教科を設定し、主 体的、対話的で深い学びを 目指し研究授業を行う。	授業研究 授業観察	全員参加	・年間を通して同じ 講師の先生にご指導 いただいた。 ・導入の工夫を中心 に授業改善に取り組 んだ。	・協議会や検討で意 見交換が活発に行わ れた。	◎
---------	------	------------	-------------------	---	--------------	------	---	-------------------------------	---

重点的な取組事項－2		児童がより安全に、安心して元気に学ぶことができる環境を確立する。							
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題		達成度	
児童にとって安全・安心で元気な学校生活を確立する。いじめ解決100%を目指す。		保護者アンケート「安全・安心に関する項目」：肯定的な回答90%以上		・保護者の91%が、安全・安心に関する項目に肯定的な回答をした。		安全な学習環境の整備、人権教育の推進、感染症対策の徹底を行うことができた。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
項目	達成基準	具体的な方策		実施結果		コメント・課題		達成度	
いじめのない学校生活の充実	いじめ解決率100%	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ相談箱やHyperQ-U検査によるいじめの早期発見および早期解決 ・自己肯定感の醸成を図りいじめ防止を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・1月までのいじめ調査で対応継続案件はあるが、ほぼすべて解決済み。 ・全学級で児童にSOSの出し方指導をし、人権標語を作成した。 		児童のトラブルを組織で情報共有し、早期発見・早期対応できた。ふざけ半分で相手を傷つけることがないよう、規範意識の徹底が必要である。		○	
安全・安心な学校の充実	学校施設の安全に関するアンケート：肯定的な回答85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の施設点検 ・施設の不備に関する早期改修 		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の94%が、学校施設の美化や感染症対策の徹底に肯定的な回答だった。 ・毎月、全教職員で分担して施設点検を行い、早期改修に努めた。 		毎月の点検だけでなく、主事が清掃する際、床や壁の剥がれなどにすぐに気付き、対応したことで良好な環境づくりができた。		◎	
あいさつの徹底	児童評価で元気にあいつができる児童80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職・複数の教員・PTAによる校門での挨拶（毎日） ・代表委員会によるあいつ運動 ・来校者へのあいつを各学年で指導 		毎月の点検だけでなく、主事が清掃する際、床や壁の剥がれなどにすぐに気付き、対応したことで良好な環境づくりができた。		コロナ禍もあり、大きな声で挨拶する習慣が身に付いていない児童がいるため、今後も意欲付けが必要である。		○	

体力向上	自己目標を80%の児童が達成	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを通じた体力向上 持久走・なわとびタイムの設定 	<ul style="list-style-type: none"> 校庭遊びの人数制限を緩和し、外で遊ぶ回数を増やした。 休み時間の終わりに2分間走やなわとびタイムを実施したことで持久力向上が図れた。 	休み時間のボールを増やしたことで、児童が投げる経験を積むことができた。2分間走実施により、ほとんどの児童が継続して走り続けられるようになってきた。	◎
------	----------------	--	---	---	---

重点的な取組事項－3		保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。		学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」：肯定的な回答90%以上	「保護者・子どもたちの相談を受け止め、真摯に対応している」91%、「地域の活動に参加している」38%	コロナ禍の状況から徐々に地域と関わる活動が増えてきたので、より評価してもらえよう、改善に努めていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者との共育体制の確立	授業参観、保護者会等の肯定的評価85%以上	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観、保護者会の内容の改善充実 	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開、運動会や音楽会について、人数制限を設けながらできる限り保護者に公開した。 「熱意をもって教育活動している」90% 	コロナ禍の状況を鑑みて授業公開の判断をしたり、保護者会をリモートで実施したりすることができた。次年度保護者の意見も聞き、共育体制を確立していく。	◎
P T A や開かれた学校づくり協議会を中心とした協働体制の確立	学校評価アンケート・家庭や地域との連携に関する項目：肯定的な回答85%以上	<ul style="list-style-type: none"> 各部活動への協力 各学年の活動との連携 	<ul style="list-style-type: none"> P T A や開かれた学校づくり協議会と連携し、五色祭や土曜スクールを開催した。 「P T A 活動に参加している」46% 	肯定的な回答率は課題が残るが3年ぶりに開催できたことに意味がある。地域・保護者の方々と連携し、地域・学校への所属感を高める。	○

体験的学習場面や地域の教材化や地域の人材を生かした授業づくり	校外学習・講師による授業等体験的学習を各学年1回以上	・TGG など体験的な校外学習の実施 ・PTA・開かれた学校づくり協議会との連携による学習場面の設定	・「秋さがし」「大根抜き」「ふれあい動物」「落語教室」「TGG」等体験的な活動を多く実施した。開かれた学校づくり協議会と連携し、「花いっぱい活動」「ポッチャ教室」を開催した。	今後も地域の教材化や地域の人材を生かした授業づくりを展開する。「キャリア教育」「環境教育」等、実社会に関連の深い学びの充実を図っていく。	◎
オリンピック・パラリンピック教育の組織的計画的推進	オリンピック・パラリンピック教育の組織的計画的推進の自己評価85パーセント以上	オリ・パラ教育の実践自己評価85パーセント以上	・各教科の学習内容・活動に「東京2020レガシー」を関連付け取り組むことができた。実践自己評価80%	体験的な活動を多く取り入れ意識を高めていく。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- ・まずは第一の重点目標である学力向上だが、残念ながら目標値はクリアできなかったものの、教員の学力向上に向けた意欲や取り組みは目に見えて向上してきている。トップダウンだけでなくミドルアップも取り入れ具体策がより工夫されつつある。今後さらなるミドルアップにより学力向上に向け期待ができる。
- ・安全安心な学校については、担任と保護者の連携により、いじめの早期発見、早期解決につながっている。今後も保護者との連携を密にし、いじめ防止、いじめの早期発見、早期解決を図っていく。
- ・保護者地域と共に子供を育む学校として、地域の教材科については生活科、総合的な学習の時間では達成できたが、地域人材を生かしたゲストティーチャーを活用しての授業はまだまだ工夫の余地がある。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・PTA組織がしっかりしており、たいへんまとまっていて協力的である。今年度は少しずつPTA行事も再開され、特に五色祭は盛況であり盛り上がった。その他、運動会、音楽会、学校公開など大きな行事での協力体制が素晴らしく円滑に行事を運営することができた。

(3) その他（学校教育活動全般について）

- ・引き続き学力向上、安全安心な学校、地域保護者と子供を育む学校の3本柱で来年度も学校教育活動を進めていく。